

県外での復興フォーラムの開催について

【要旨】

東日本大震災津波からの復興の加速化を図るため、中部圏において「復興フォーラム」を開催します。

1 目的

被災地域の状況や復興への取組等について情報発信を行い、本県の復興への理解と風化防止、復興の取組への継続的な支援・参画促進を図ることを目的として県外において復興フォーラムを開催するもの。

2 開催内容 [敬称略]

(1) 中部圏

名称	いわて三陸復興フォーラム in 静岡
日時	平成27年12月18日(金) 14:00～16:30
場所	しずぎんホール「ユーフォニア」(静岡市葵区)
開催形態	主催：岩手県 後援：復興庁、静岡県、静岡市、静岡新聞社・静岡放送
テーマ	つながりから培う復興と備え
鼎談	静岡県知事 川勝 平太 、岩手県知事 達増 拓也 、 静岡大学防災総合センター教授・副センター長 牛山 素行
パネリスト	NPO 法人いわて GINGA-NET 代表 八重樫 綾子 野田村漁業協同組合野田養殖組合 組合長 小谷地 勝 NPO 法人静岡県ボランティア協会 事務局長 鳥羽 茂 はびまま実行委員会 代表 池田 水穂子 静岡県由比港漁業協同組合 代表理事組合長 宮原 淳一
コーディネーター	静岡新聞社編集局次長 論説委員兼編集委員 荻田 雅宏
その他	・来場者全員に三陸いわてわかめ(パック入：県漁連無償提供)を配布 ・復興関連のパネル展示やビデオ上映 ・国体、ILC、ジオパーク、平泉・橋野高炉跡世界遺産のブース展示

【担当：復興局復興推進課 藤澤(内線6925)】

震災から5年 つながりから培う 復興と備え



静岡県
知事

川勝 平太
(かわかつ へいた)



岩手県
知事

達増 拓也
(たつそ たくや)



静岡大学防災総合センター教授
副センター長

牛山 素行
(うしやま もとゆき)

曳き船まつりで
湾内を周回する漁船
(写真提供: 釜石市)

～新たなふるさとづくりに向けて～

入場無料

いわて三陸復興フォーラム in 静岡

2015 12.18 (金) 14:00-16:30(予定) しずぎんホール「ユーフォニア」

鼎談 テーマ「東日本大震災津波の教訓を生かした災害に強い地域づくり」



静岡県知事
川勝 平太 (かわかつ へいた)



岩手県知事
達増 拓也 (たつそ たくや)



静岡大学防災総合センター教授・副センター長
牛山 素行 (うしやま ともゆき)

パネルディスカッション テーマ「つながりから培う復興と備え」



パネリスト紹介



NPO法人いわてGINGA-NET
代表 **八重樫 綾子** (やえかし あやこ)
盛岡市出身。岩手県立大学社会学部卒業。大学1年のときに「岩手県立大学 学生ボランティアセンター」に参加。以降、岩手宮城内陸地震、東日本大震災津波等、被災地域のボランティアに関わる。平成24年2月、NPO法人「いわてGINGA-NET」を設立。県内外の学生ボランティアと被災地を結びつける様々な活動を展開。その功績により、今年8月には復興に尽力してきた団体・個人をたたえる「東北みらい賞」の個人賞を受賞。



野田村漁業協同組合野田養殖組合
組合長 **小谷地 勝** (こやち まさる)
県北部で最も被害の大きかった野田村で、震災直後からホタテ養殖を再開。わずか9か月後にはホタテ稚貝を初出荷した。民間企業とのプロジェクトにより、素材にこだわる料理人との協働で、野田村や水産物にまつわる新たなストーリーを作成し、村全体の価値を全国に広げていく等の活動を行い、昨夏から「荒海ホタテ」と銘打ち、ブランド化を推進している。



NPO法人静岡県ボランティア協会
事務局長 **鳥羽 茂** (とば しげる)
平成23年4月、被災地のボランティア拠点として遠野市に「遠野災害ボランティア支援センターまごころ寮」を開設。その後「まごころ寮」を釜石と大槌に移設。それぞれ「三陸ふじのくに絆ハウス鶴住居」「三陸ふじのくに絆ハウス大槌」とし、交流拠点として運営(平成27年3月に閉鎖)。静岡で大槌町の風の電話に関するイベント「風の電話の物語」を9月28日に開催。様々な支援活動を展開している。



静岡県由此港漁業協同組合
代表理事組合長 **宮原 淳一** (みやはら じゅんいち)
日本一の桜えびの町・由此港漁協組合長。震災後の平成23年12月、岩手・越喜来の漁業者が由此港漁協を訪れことから交流が始まる。三陸の人々の熱い思いと行動力、また四季折々豊かな三陸の海にほれ込み、「漁師が漁師のために出来ること」を掲げ、翌年2月の復興に向けた共同WSの開催、三陸のホタテやワカメの静岡での販売、共同での商品開発の取り組み等、浜と浜の交流は今も続いている。



はびま実行委員会
代表 **池田 水穂子** (いけだ みほこ)
「一人でも多くのママをハッピーに!」静岡県で子育て中のママのニーズにそった支援を行う子育て支援団体「はびま実行委員会」を運営。8,000人が集まるママ支援イベント、地域の子育て情報発信などを行う。陸前高田市においてママのための復興支援イベント「はびまカフェ」を開催。その後、静岡県内で子どもの命を守るママのための「地震減災教室」などを行い、一歩進んだ備えの意識の共有化を積極的に図っている。

コーディネーター



静岡新聞社編集局次長 論説委員兼編集委員
萩原 雅宏 (おぎた まさひろ)
昭和34年静岡市葵区生まれ。北海道大学文学部卒業。昭和57年に静岡新聞社に入社し、記者として東京支社編集部、沼津支社(現・東部総局)編集部、藤枝支局、社会部(防災担当)などに勤務。社会部副部長、富士支局長、総合メディア局デジタル編集部、編集局ニュースセンター次長などを経て現職。現在は静岡新聞紙面で社説のほか、朝刊1面コラム「大自在」の執筆を担当している。

全体スケジュール

- ★14:00 開会
岩手県知事あいさつ
- ★14:05 鼎談
- ★14:45 (休憩)
- ★15:00 パネルディスカッション
- ★16:30 閉会

パネル展示コーナー

岩手日報報道パネル展「ともに前へ」

震災後から継続される復興へのアクションや、静岡とのつながりのニュースなども交えて展示します。

IBC岩手放送震災関連報道映像の放映

IBC岩手放送所有の震災関連報道映像の中から関連素材を会場にて放映。復興への取組を紹介します。

いわて三陸復興マルシェ

会場内では岩手県産品の物販もございます。三陸の豊かな恵み、たしかな手仕事をお買い求めください。

ご来場の皆様に
三陸産いわてわかめ(パック入り)
無料プレゼント!



全国の皆様のご支援により震災から復活した三陸産いわてわかめ。ご来場の皆様にもれなくプレゼントいたします。肉厚で弾力があり、風味豊かな三陸産いわてわかめをご堪能ください。

開催場所マップ

しずぎんホール「ユーフォニア」

〒420-0853 静岡市葵区追手町1-13
アゴラ静岡ビル8階
(JR静岡駅より徒歩10分)



定員 400名

締め切り

平成27年12月14日(月)【定員になり次第締め切り】

メールまたはFAXで受付の上、聴講券をお送りします。応募多数の場合は先着順となります。

問い合わせ

開催事務局:岩手日報社広告事業局広告部「いわて三陸復興フォーラム係」TEL019-653-4111へ。

(9時30分~17時、土・日・祝日を除く)

申し込み

FAXの場合は、参加申し込み書に記入の上、FAX019-626-1881開催事務局:岩手日報社広告事業局広告部「いわて三陸復興フォーラム係」へ。
メールの場合は、名前、郵便番号、住所、電話番号及び「静岡会場参加」と明記の上、fukkou@iwate-np.co.jpへ。

※応募の個人情報は、岩手県及び岩手日報社が聴講券の発送、フォーラム受付のために使用します。

〈いわて三陸復興フォーラムin静岡 参加申し込み書〉

(所属)

(氏名)

(職名)

(電話番号)

(郵便番号)

(住所)